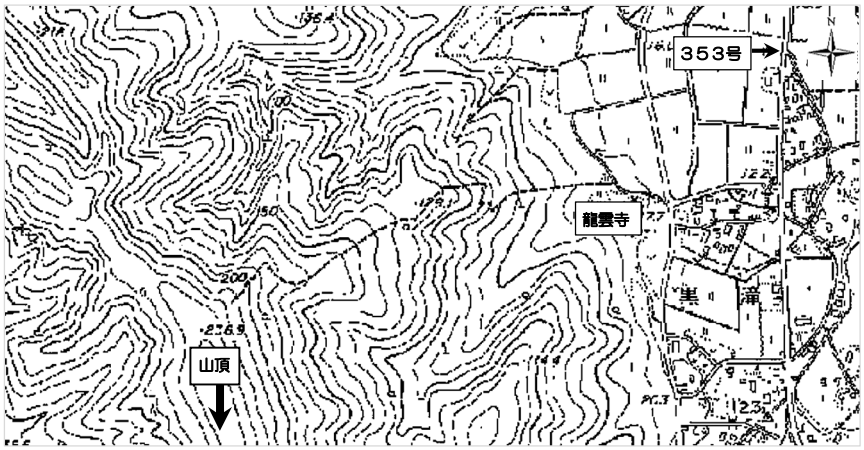
坂さんぽ ⑧

「縁切り坂」

新道地区黒滝を走る国道３５３号に「竜雲寺」バス停がある。バス停名の由来となった曹洞宗龍雲寺は、バス停から約２００m西にある。天明年間（１７８２～１７８９年）に造られた庭が有名で、柏崎の行事や風物を紹介した「柏崎歳時記」では「とくに黒滝竜雲寺の庭はこのつゝじが有名のところです」と紹介されている。また柏崎の俚歌俗謡にも「旭のさすのは龍雲寺、庭に拝見仕る」と歌われていたほどである。



この龍雲寺の裏山の西側に「縁切り坂」と呼ばれる坂がある。柏崎伝説集によると、昔、別の村から黒滝に嫁いできた女性が、山上にある薪を家まで運ぼうと夫と一緒にこの坂に差し掛かった。しかし坂が大変急なので、一人で登ることができず、夫の手を借りてようやく山上にたどりついた。だが、今度は薪を背負って坂を降りることができず、回り道をしてようやく家に帰ることができた。このことを実家に帰って両親に告げたところ、両親は娘をかわいそうに思って離縁を申し込んだという。この土地に縁づいたもので一度この坂を通り、縁切りを願わなかったものはなかったということで「縁切り坂」を名づけられたという。

伝説では「縁切り」は離縁から名づけられたものだが、地元の方によると、急な坂で息（えき）が切れることから「えんきり」と呼ばれる、ということである。急な坂のため、坂の途中に座る場所が作ってあり、茅を刈って帰る際にはここで休憩をしたという。坂を下りたところには「めおと石」と呼ばれる大きな石があるが、ここまで太陽の影が来たら仕事をやめて帰る、という目安の石であったという。一年おきの６月半ばに地域の人が集まって坂の道普請をして茅などの草を刈ったので、急な坂ではあるもののそれほど歩きにくい道ではなかったそうである。

冬期間は、雪で坂を上ることも道を確認することもできない。「縁切り」と「めおと石」という婚姻にまつわる名称が残るこの坂は民俗学的に見ても興味深い坂ではないだろうか。

●参考にした資料
『柏崎伝説集』柏崎市教育委員会編（３８８ Kキヨ）
『柏崎』中村葉月著（２２４ ナカ）
『柏崎歳時記』山田良平著（９１０ ヤマ）
『昔の話でありました』深田信四郎著（３８８ フカ）

※龍雲寺の「竜雲寺」表記は原文表記のとおり掲載